

令和5年度
学校関係者評価報告書

一般財団法人岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

別添資料 次第

令和5年度 自己評価報告書

令和5年度 学科別自己評価報告書

令和1～5年度 国家試験結果および留年者・退学者状況報告書

学院案内 2025

令和7年度 学生募集要項

I 会議の概要

日時 令和6年7月16日(火) 19時00分～20時30分

会場 岩手リハビリテーション学院

出席 岩手リハビリテーション学院 学校関係者評価委員会

委員 一般社団法人岩手県理学療法士会 副会長

委員 岩手リハビリテーション学院同窓会「桐友会」 副会長

岩手リハビリテーション学院 職員

副学院長 細川康紀

理学療法学科長 及川龍彦

作業療法学科長 岡崎謙治

事務長 峯 智

II 会議の内容

1. 開会

開会にあたり細川副学院長より、委員の岩手県作業療法士会会長と齊藤学院長は所用により本日欠席となることが報告され、続いて令和6年度学校関係者評価委員会開催の旨が告げられるとともに、配付資料の確認がなされた。

2. 学院長挨拶

齊藤学院長に代わり細川副学院長より、出席に対する御礼と報告に対する審議の依頼がなされた。

3. 委員紹介

細川副学院長より、学校関係者評価委員会委員ならびに職員の紹介がなされた。

4. 議長について

学校評価実施規程第14条第6項に則り、一般社団法人岩手県理学療法士会副会長が議長を務めた。

5. 自己評価結果報告（対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日）

「現状および課題」ならびに「対策」に分けて報告する旨が示された後、学校全体の内容に関しては細川副学院長、学科単独の内容に関しては佐藤理学療法学科長、岡崎作業療法学科長より令和5年度自己評価報告書に沿って報告がなされた。

資料掲載事項以外の口頭説明の主旨は以下の通り。

1. 教育理念・目標

- ① より具体的に教育方針を周知するために策定している3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）については、ホームページでの公開のほか見学説明会等においても説明している。
- ② 臨床実習指導者会議・実習地訪問・就職説明会は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け対面での開催に支障を来したが Web とのハイブリッド開催により、概ね業界ニーズの把握に努めることができた。

2. 学校運営

- ① 学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実を図る目的でホームページに学生掲示板を新設したが、従来の書面掲示との併用により活用度が低かったため今後は双方の利便性を検討し改善していく。

3. 教育活動

- ① 理学療法学科では教員数不足により講義に費やす時間数が増えたため、学生に対する授業アンケートを行うことができず授業評価を実施できなかったが、今年度は7月に授業アンケートを実施する予定である。
- ② 成績評定の客観的指針として主に大学等で使用されている GPA（Grade Point Average）については、令和7年度の導入に向けて準備を進めている。
- ③ 教員数に関して、理学療法学科では1名内定者を確保し令和7年度は7名体制の予定であるが、学生指導等の充実に向け引き続き8名体制を目指していく。

4. 学修成果

- ① 理学療法学科の国家試験対策について、次年度においても今年度同様に模擬試験や個別指導を進めるとともに学生の国家試験に対する意識

高揚を図り、学習効率を高めるための学修方法指導を継続する。

- ② 作業療法学科の国家試験対策について、4名程度の小グループを組み国家試験対策に臨ませており、各グループの進行度合いに多少のばらつきがあるもののヒアリング等による対策を講じた結果、令和5年度の国家試験合格率に繋がったと考えているため今後も継続して対応していく。
- ③ 理学療法学科における退学者について、学科の教育目標に基づき指導していたが学生の受け止め方への配慮に欠け、誤解を生じた事も要因の一つである。対策として学生とのコミュニケーション不足の解消や指導方法・教育手段までを含め再構築している最中である。
- ④ 作業療法学科における退学者について、1年生については入学前の理想像と入学後の学習内容などから自分の将来像を形成できない学生に対しては面接等により対応してきたが、意欲や動機付けを上手く指導できなかった。

2年生については今の学習内容が将来どのように繋がるかなど一番不安定になりやすい学年であり、教員はキャリアラダーの形成などをイメージし指導しているが学生との共有は上手くできなかった。

5. 学生支援

- ① 理学療法学科における学生相談について、学生相談に関する体制は整備されているが、十分に機能したとはいえなかった。
- ② 作業療法学科における学生相談について、相談内容によっては担任以外の教員でも学生が選択して相談ができるよう相談窓口を拡げて対応している。
- ③ 指導体制等については、理学療法学科において学生と教員の間には齟齬が生じてしまった。教員に相談しやすい環境整備を進めるとともに、現在学院内に設置している「よろず相談窓口」に加え、多角的な相談窓口として新たに法人のホームページ内にEメールでの相談窓口を設置し、対応していく。
- ④ 理学療法学科における保護者等との連携については、令和5年度においては学科内部の調整に時間がかかり保護者等との十分な連携がとれなかったため、令和6年度は10月・11月を目処に「保護者便り」の発行を通じて意思疎通を図るよう努める。
- ⑤ 作業療法学科における保護者等との連携については、学年毎の保護者説明会として、1年生は入学時、4年生は総合実習前に対面で、2・3年生はWebで実施しており、学年毎の課題を保護者と共有している。また、学年毎にアンケートを実施しているが、そのフィードバックに時

間的タイムラグが生じタイムリーさに欠けることがあるため、今年度は「学年通信」の発行など学校からの情報発信により保護者等との連携を強めていく。

6. 教育環境

- ① 指定規則の改正に伴う機器備品の整備については、5か年計画により令和5年度で整備が完了したが、設備・備品等の老朽化も見られるため今後も必要となる機器備品等については購入を進めていく。
- ② 施設の老朽化対策については、新たな5か年計画を策定し、令和5年度は校舎東面の外壁改修工事等を実施した。令和6年度は校舎南面の外壁改修工事、非常階段、ピロティの段差解消工事等を予定している。

7. 学生受け入れ

- ① 少子化により学生の確保は厳しい現状ではあるが魅力ある学院をアピールするため、既存の広報に加えて新たに盛岡駅構内のデジタル案内板への広告掲載を行うなど可能な限りの広報を行っている。
高校訪問、オープンキャンパス、学科別説明会などを通して本学の特色や魅力を発信し、今後は大学や他の専門学校との差別化を検討していく。

8. 財務

- ① 法人全体として、病院経営は引き続きコロナの影響が見られ厳しいが、学院として作業療法学科は定員割れしているものの学院単独での財務状況は安定している。

9. 法令遵守

- ① 理学療法学科の教員数不足により法令の指定規則を遵守することができなかった。

10. 社会貢献・地域貢献

別添資料「令和5年度自己評価報告書」の通り。

6. 自己評価各項目についての質問・意見

1) 退学者状況及びハラスメント対策について

質問 退学者が多い要因は様々あると思うが、昨今教育現場等で問題となるハラスメントに関して、学院で整備している規程はどのように運用されているのか。
(同窓会副会長)

回答 本人の訴えに対し、それに基づき双方の事実確認を行い、ハラスメント委員会において『プライバシー』『名誉』『人権尊重』について最大限配慮しながら事象の検証を行い、解決に向けた対策・対応を検討し対処することとなっている。(細川)

令和5年度に関しては、理学療法学科において指導方針の問題及び教員と学生の信頼関係の問題が表面化し、それに対する学科内での自浄作業が働きにくい状況があるため新学科長が就任して現在修正を図っているところである。(佐藤)

本学入学の目的として最も重要なことは国家試験の合格であるが、人材育成も重要であるため行事としてスポーツ大会や盛岡さんさ踊りへの参加などにより両学科の交流を通して人間性が育まれるよう努めている。(岡崎)

意見 ハラスメント対策には時間が必要であり、今後も「よろず相談窓口」などの活用により多角的に学生・教員間、学生同士・教員同士のコミュニケーションをとりながら本来の目標に向けて進んでもらいたい。(同窓会副会長)

ハラスメント対策は相談窓口を設置しても受け手側(被害者)がSOSを出さないと発動しないという難しさがあり、学生が発言できない空気があることが問題で風通しの良い風土、全体の雰囲気作りが重要である。(理学療法士会副会長)

2) 第59回国家試験の合格率について

意見 第59回国家試験の合格率が理学療法学科・作業療法学科共に全国平均を上回ったことは十分評価することができるので、胸を張って良い結果である。(理学療法士会副会長)

3) 指導体制等について

質問 指導体制等で「理想とする理学療法士の養成」を意識するあまり・・・という部分について、これは学科目標にある文言なのか。この文言自体は良いものであり、学科内の問題は昨年始まったわけではなく順調な時期もあったと思うが、どのようなプロセスを経てマイナスの方向に進んだのか。(理学療法士会副会長)

回答 理想とする理学療法士について、学生自身が目指す仕事に向けてどのような学習姿勢を持つべきなのか、対象者を思いやるために挨拶等を含めて基本的態度を徹底させることなど、教員側としては上手く指導できたと思っても学生側の受け取り方に齟齬が生じていた。(細川)

私が学科長に就任して半年経過し、その中で感じたことは学生に対して威圧する対応が見られるなど手段が誤っていると感じたため少しずつ変え改善されてきているが、学生側も話す相手(教員)を選んでいる印象があるため懸念

している。(佐藤)

意見 私の職場にも貴学院からの入職者や実習生がおり、その関わりの中で挨拶等の基本的態度が良く、多少勉強ができなくても頑張れる臨床向きの姿勢がみられ好感を持てるが、期待されることを目指すという側面もあるのかと考えさせられた。(理学療法士会副会長)

4) その他

質問 学生の保護者について、以前と変わっている印象はあるか。(理学療法士会副会長)

回答 基本的には変わってはいないと思うが強いてあげれば、以前よりも教育への関心が高くなっているかもしれない。(細川)

質問 ホームページ上の掲示板について、高校でもクラス内の連絡事項等をリアルタイムで配信する Teams などを利用しているが、学院でもそのようなものを導入しているのか。(同窓会副会長)

回答 導入を検討してはいるが、本学院としての活用内容を吟味した上で検討したいと考えている。学生は情報を与えられることに慣れ過ぎており、自ら情報を得ることも必要となるため導入には検討の余地がある。(細川)

意見 委員会の終わりに意見として、未実施の授業評価については今年度実施してもらいたい。(同窓会副会長)

今回の委員会での意見交換を活かしてもらい、今後の学院運営に取り組んでもらいたい。(理学療法士会副会長)

7. 閉会

議長より令和5年度学校関係者評価委員会の閉会が告げられた。